

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果(明戸小学校)

平均正答率

自校の平均正答率と県の平均正答率との比較

	国語	算数・数学	理科
明戸小	同等67.0	上回った67.0	上回った71.0
埼玉県	67.0	64.0	65.0
全国	65.6	63.2	63.3

児童生徒質問紙調査の結果と分析

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値(単位 %)

	質問事項	明戸小	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	95.7	94.8	94.4
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	86.9	83.0	81.5
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	95.7	91.2	90.4
	新聞を読んでいる(週に1回程度以上)	21.7	13.0	13.8
学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	82.6	74.1	71.1
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる	100.0	81.6	78.2
	昨年度までに受けた授業で、課題解決に向け、自分で考え、自分で取り組んでいた	82.6	81.7	77.3
	学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強をしている(学習塾等で勉強している時間も含む)	60.9	61.7	59.4
教科の関心	国語の勉強は好きだ	82.6	60.7	59.2
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	95.6	93.1	91.8
	算数の勉強は好きだ	82.6	62.3	62.5
	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	95.7	94.0	93.3
	理科の勉強は好きだ	91.3	81.1	79.7
	理科の授業で学習したことは、将来社会に出たときに役に立つと思う	91.3	78.7	77.2
ICTの活用	昨年度までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	60.9	61.6	58.2
	学校で、授業中に自分で調べる場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	43.4	36.6	43.9
	学校で、学級の生徒と意見を交換する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	17.3	23.2	22.1
	学校で、自分の考えをまとめ、発表する場面で、PC・タブレットなどのICT機器を、週に3回以上使用した	34.7	22.9	21.7
	平日、1日あたり1時間以上スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を、勉強のために使っている	30.4	22.2	21.6
その他	自分には、よいところがあると思う	69.5	82.0	79.3
	将来の夢や目標をもっている	87.0	81.3	79.8
	人の役に立つ人間になりたいと思う	95.6	95.5	95.1
	今住んでいる地域の行事に参加している	73.9	50.4	52.7

【質問紙分析】

- ・各教科共に「勉強は好きだ」と応えた割合が、県や全国を大きく上回っており、学習意欲が高いといえる。今後も維持できるよう、人的・物的環境整備に努める。
- ・児童全員が、学習成果を見直し、次の学習につなげることができている児童の割合が高く、家庭学習等での復習の学習習慣が定着しているといえる。
- ・地域の行事に参加している児童の割合が高く、子供たちが地域に支えられ地域とともに育っていることがよく分かる。今後も、学校・家庭・地域の連携を大切にしていく。
- ・「自分には、よいところがあると思う。」と応えた児童の割合が低く、自分に自信がない様子が分かる。成功体験をできるだけ多くし、自己肯定感を育てていく。

全国の平均正答率と比較して大きく上回った問題○と課題のある問題●とその理由

【国語】

○3三ア、3三ウ

（理由）出題の趣旨は「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」であるが、家庭学習等での日常的な練習が定着しているからと考えられる。

○3二

（理由）出題の趣旨は「文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つける」であるが、普段から読書を奨励することで読解力が身に付いているからと考えられる。

○1二

（理由）出題の趣旨は「言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える」であるが、3二と同様に、読解力が身に付いているからと考えられる。

●2一（1）

（理由）出題の趣旨は「登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える」であるが、部分的な叙述にとらわれてしまい、全体の叙述を総合的に捉えて判断できなかったと考えられる。

●1四

（理由）出題の趣旨は「互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめる」であるが、文章化するにあたり、正答の条件である「【話し合いの様子の一部】から言葉や文を取り上げて書く」ことを満たしていないためである。

●2二

（理由）出題の趣旨は「人物像や物語の全体像を具体的に想像する」であるが、この物語から伝わってくることを考えて書いていない解答が多かったためである。

【算数】

○1 (3)

(理由) 出題の趣旨は「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できる」であるが、日頃から問題解決学習を行い、自分の考えを言葉で表現する活動を大切にしていることによると考えられる。

○3 (4)

(理由) 出題の趣旨は「加法と情報の混合したポイント数の求め方を解釈し、ほかの場合のポイント数の求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる」であるが、1 (3)と同様に自分の考えを言葉で表現する活動を大切にしていることによると考えられる。

○2 (2)

(理由) 出題の趣旨は「百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる」であるが、宿題や朝学習等で百分率の基本的な計算方法を十分練習し、着実に身に付けたことによると考えられる。

●2 (3)

(理由) 出題の趣旨は「果汁が含まれている飲み物の量を半分にするという、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している」であるが、日常経験と問題場面の状況理解とを結びつけないまま、安易に「半分」を選択したためと考えられる。

●3 (3)

(理由) 出題の趣旨は「目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取ることができる」であるが、1年生と6年生の両方が希望する割合が一番大きいものを選ぶべきところを一方の割合だけしか注目せずに解答してしまったためと考えられる。

●4 (3)

(理由) 出題の趣旨は「図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している」であるが、プログラミングに入力すべき角度として外角を求めるところを、安易に内角を選んでしまったためと考えられる。

【理科】

○2 (4)

(理由) 出題の趣旨は「自然の事物・現象から得た情報を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」であるが、登場人物の気づきを正しく理解し、見出された【問題】を記述できたことによると考えられる。

○2 (1)

(理由) 出題の趣旨は「メスシリンダーという器具を理解している」であるが、実験等で使用する際に正しい名称で繰り返し呼称するよう習慣づけたことにより、正しく「メスシリンダー」と答えることができたと考えられる。

○1 (3)

(理由) 出題の趣旨は「昆虫の体のつくりを理解している」であるが、昆虫の体のつくりについて正しく理解できており、ナナホシテントウが昆虫である特徴を確認するために最も適した写真を選ぶことができたと考えられる。

●3 (4)

(理由) 出題の趣旨は「実験で得た結果を、問題の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもち、その内容を記述できる」であるが、①缶の色、②経過時間、③缶の温度、④他の色の缶との温度の違いの全てに言及すべきところを、満たしていないまま記述した解答が多かったためだと考えられる。

●2 (2)

(理由) 出題の趣旨は「メスシリンダーの正しい使い方を身に付けている」であるが、正しい量にするためにスポイトで加える水の量を正しく読み取れなかったためだと考えられる。

【国語】

- ・初めて読む文章を、限られた時間で正確に読み取れるようにするために、新聞記事やコラム記事を活用したり、読書活動や長文を読むことを計画的に取り入れたりする。
- ・諸条件（文字数、段落、内容）の中で考えや理由を記述する学習を意図的、継続的に取り入れ書く機会を多くし、表現力を高めるようにする。
- ・条件の確認や誤字・脱字の確かめのためにも「推敲」することを習慣化する。
- ・原稿用紙を使って、文字数を意識して、課題に対して自分の考えが表現できるようにする。
- ・タブレットを活用して、文字入力による文章表現活動も積極的に取り入れる。
- ・（主語、述語）（修飾、被修飾）のといった言語のつながりが理解できるように、授業の中でも言語に関する文や教材をていねいに扱うとともに、類似問題にも積極的に取り組む。
- ・音読や暗唱によって、良い文章や言葉に多くふれるようにする。
- ・国語辞書を積極的に活用して、多くの言葉や文にふれさせるようにし、語彙力を高める。
- ・タブレット等を活用して、各教科・領域にわたって、調べ学習を進んで行うとともに、書かれている文章や説明を、キーワードを使ってノートやワークシート等にまとめることができるようにする。

【算数】

- ・ 問題文の状況説明の部分を理解できるようにする必要がある。そのために、文章問題を解く際に、絵や図を描いたり、立式をする前に必ず状況確認したりするように習慣化を図る。
- ・ 導き出した答えが聞かれていることに正対しているかどうかを必ず確認するよう習慣づける。日常の学習でも、他の児童と確認し合う活動を積極的に取り入れる。(見直しと確かめ)
- ・ 用語や概念(定義)の理解が曖昧にならないよう、問題提示の場面の、特に内容を説明する際に、元々の定義にまで触れるよう心掛ける。
- ・ 公式が導き出されているものについては、学習後の時間経過で記憶があいまいになってしまうのを防ぐため、ふりかえりの学習を行い意図的にとりあげて定着を図るようにする。
- ・ 状況説明の中で示されている文や表の中から、問題を解くのに必要な条件や数値を選びだす力を高めるため、発展的な問題にも進んで取り組ませるようにする。
- ・ 立式の根拠や、問題解決の過程を、算数の用語を適切に使って説明する力を高めるために、ノート指導や意見発表の活動に継続して取り組む。
- ・ ドリル学習による計算力向上や公式を使って基本的な問題を解く力の定着だけでなく、文章問題や数学的思考力を活用する問題にも計画的に取り組ませる。(単元のまとめや家庭学習等)・

【理科】

- ・ 問題発見から結論に至る過程を児童自らの言葉で記述させるようにする。
- ・ 実験器具の操作を普段から（輪番制等で）全員が経験できるようにする。
- ・ 条件制御目的や意味を十分に理解させてから実験を行うようにする。
- ・ 実験を計画する際、予想される結果を実験の目的（どんなことをたしかめるための実験なのか）に照らして必ず確認し、実験中も常に意識させるようにする。
- ・ 実験結果から結論をまとめる際、できるだけ児童の言葉を取り入れ、より実感を伴った理解につなげるようにする。
- ・ 用語や概念（定義）の理解が曖昧にならないよう、問題提示の場面の、特に内容を説明する際に、元々の定義にまで触れるよう心掛ける。
- ・ 日常生活であまり使わない用語や日常生活で使用される際の意味が正式な定義と比べて曖昧な用語（「水蒸気・湯気」、「時刻・時間」、「晴れ・曇り」、「気温・温度」、…）など、意図的に繰り返し使用したり意味を確認したりして、着実な定着を図る。
- ・ 実験の様子をタブレットでモニターに中継したり、録画した様子を確認・記録する場面を繰り返しモニターで再生したりして、より印象深い記憶の定着を図る。